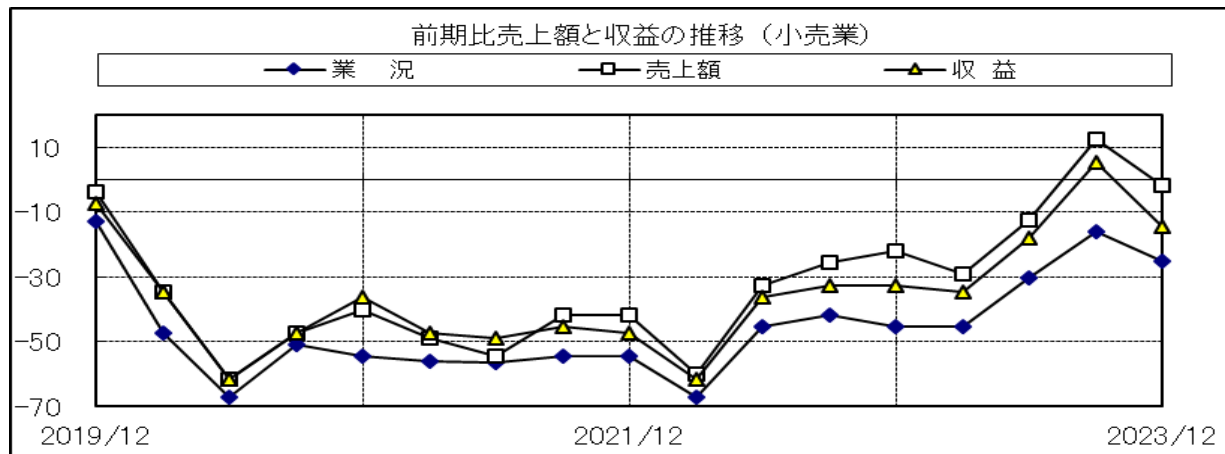


小売業 55企業（回答率 100%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
業況	-30.3	-16.0	-25.0	-32.1
売上額	-12.6	12.5	-1.8	-19.6
収益	-17.9	5.5	-14.3	-21.3

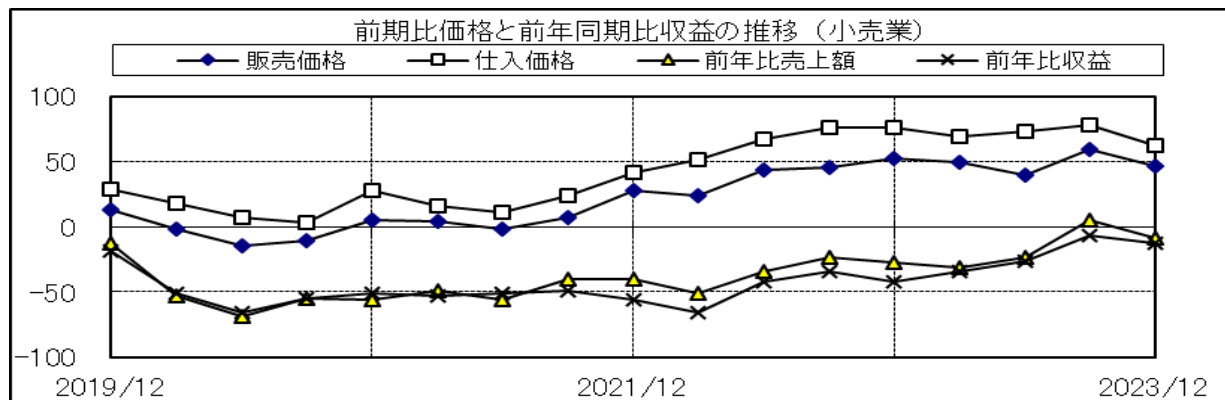
今期の業況判断 D. I. は△25.0 で、前期比 9.0 ポイント下降、前年(△45.5)比では 20.5 ポイント上昇した。地区別の D. I. は高い順に、静内が最も高く、次に、三石、広尾、様似・えりもが同率で続き、浦河が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△1.8 で、前期比 14.3 ポイント下降した。収益判断 D. I. は△14.3 で、前期比 19.8 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
販売価格	39.2	58.9	46.3	28.6
仕入価格	73.2	78.5	62.5	46.4

販売価格判断 D. I. は 46.3 で、前期比 12.6 ポイント下降、前年(52.6)比 6.3 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 62.5 で前期比 16.0 ポイント下降、前年(76.4)比 13.9 ポイント下降した。業種別の販売価格は衣料・食料品で下降、家電品は上昇した。仕入価格は衣料・食料品で下降、家電品は、横這いとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
残業時間	-8.9	-1.9	-5.3	-8.9
人手状況	-19.7	-23.2	-21.4	-17.8

残業時間判断 D. I. は△5.3 で、前期比 3.4 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△21.4 で、前期比 1.8 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

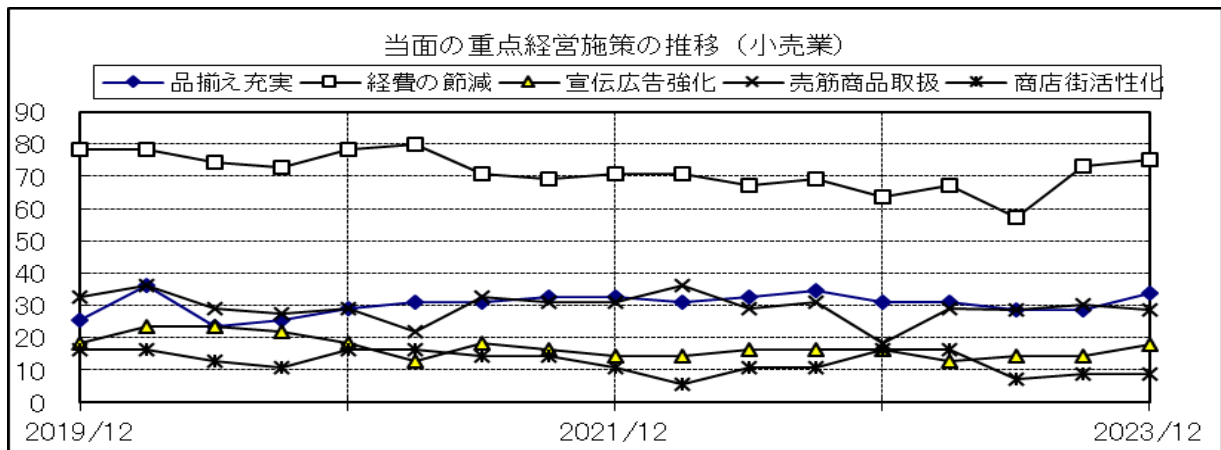
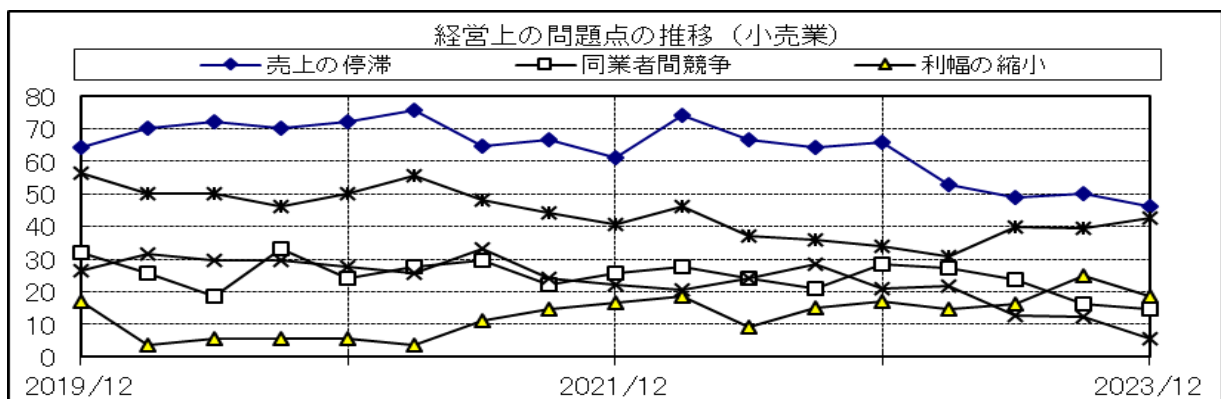
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 8.9$ で、前期($\Delta 8.9$)と同水準となった。
設備実施企業割合は8.9で、前期(8.9)と同水準となった。設備投資は、前期5社に対し5社の実施となった。来期の設備投資は、4社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が46.3%と最も多く、次に「商圈人口減少」42.6%、「取引先減少」22.2%、「値上要請」20.4%、「利幅縮小」18.5%、「同業者競合」・「商店街集客力低下」が14.8%、「人件費増加」11.1%、「人手不足」・「販売商品不足」が7.4%、「大型店競合」・「諸経費増加」・「店舗狭隘老朽化」・「代金回収悪化」が5.6%、「取扱商品陳腐化」・「地価高騰」・「駐車場確保難」・「地場産業衰退」が3.7%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が75.0%と最も多く、次に「品揃え改善」33.9%、「売れ筋商品取扱い」28.6%、「宣伝広告強化」17.9%、「仕入先開拓選別」16.1%、「商店街活性化」・「人材確保」が8.9%、「新事業開始」・「店舗設備改装」が3.6%となった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 32.1$ と、今期比7.1ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 19.6$ と、今期比17.8ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 21.3$ と、今期比7.0ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D. I. は28.6と、今期比17.7ポイントの下降を見通している。

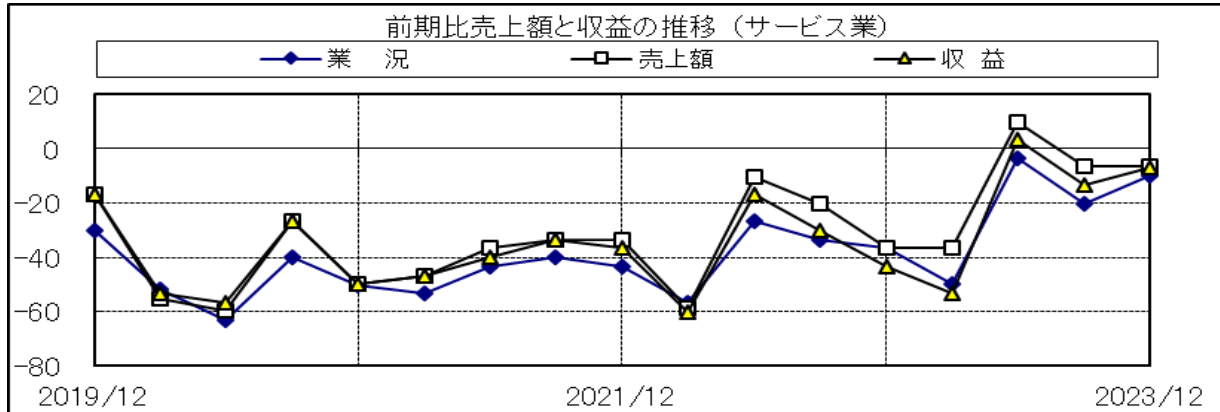
予想仕入価格判断D. I. は46.4と、今期比16.1ポイントの下降を見通している。

サービス業 30 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
業 況	-3.4	-20.0	-9.9	-23.3
売上額	10.0	-6.6	-6.6	-16.7
収 益	3.3	-13.3	-6.7	-16.7

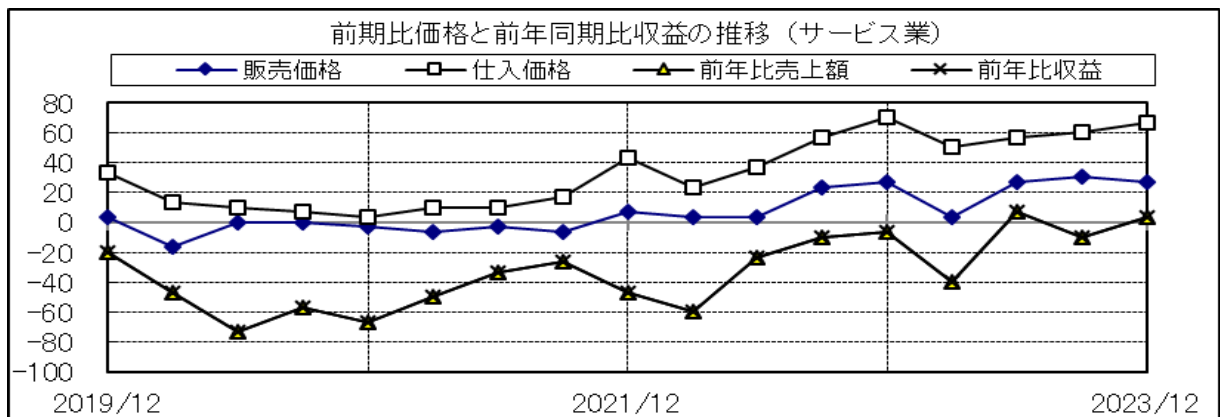
今期の業況判断 D. I. は△9.9 で、前期比 10.1 ポイント上昇、前年(△36.7)比では 26.8 ポイント上昇した。地区別の D. I. は高い順に、三石が最も高く、次に、広尾、静内、浦河・えりもが同率で続き、様似が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△6.6 で、前期と同水準となった。収益判断 D. I. は△6.7 で、前期比 6.6 ポイント上昇した。



□ 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
料金価格	26.6	30.0	26.7	23.3
材料価格	56.7	60.0	66.7	50.0

料金価格判断 D. I. は 26.7 で、前期比 3.3 ポイント下降、前年(26.7)と同水準となった。材料価格判断 D. I. は 66.7 で、前期比 6.7 ポイント上昇、前年(70.0)比で 3.3 ポイント下降した。業種別の料金価格は、旅館、洗濯理美容が下降し、自動車整備は上昇した。材料価格は、旅館は下降し、洗濯理美容、自動車整備は上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
残業時間	13.4	10.0	3.4	-10.0
人手状況	-33.3	-26.7	-33.4	-30.0

残業時間判断 D. I. は 3.4 で、前期比 6.6 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△33.4 で、前期比 6.7 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

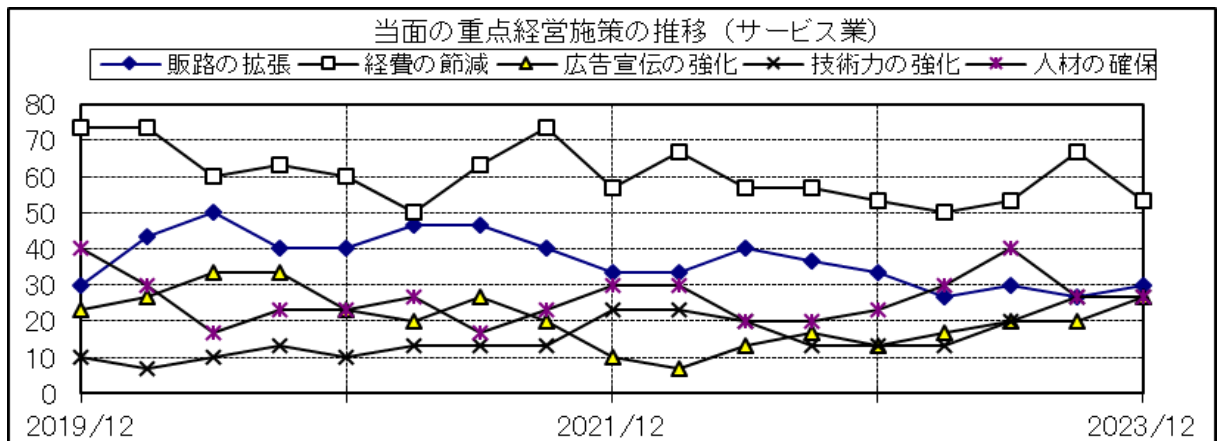
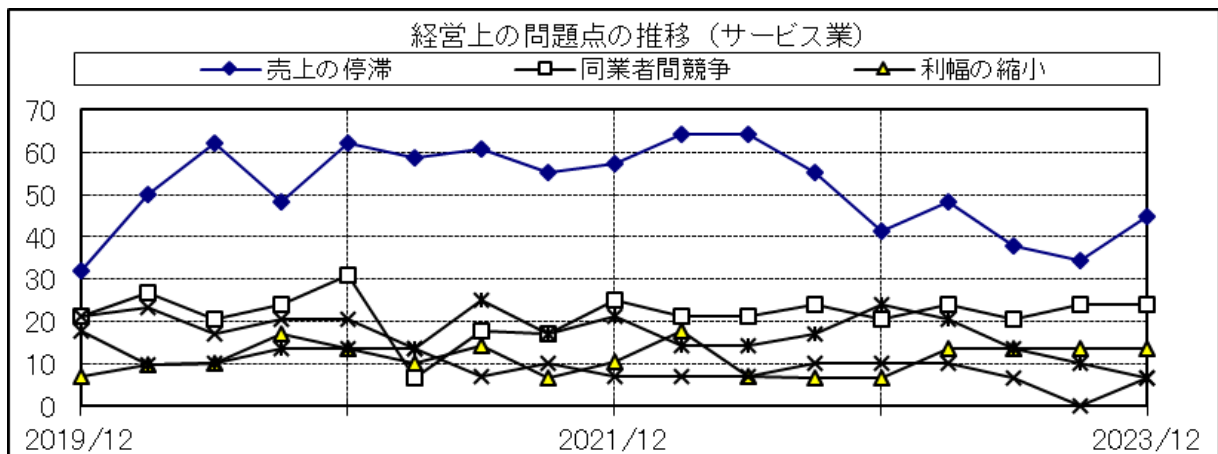
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD.I.は $\Delta 10.0$ で、前期($\Delta 3.3$)比6.7ポイント下降した。
 設備投資実施企業割合は13.3で、前期(10.0)比3.3ポイント上昇した。設備投資は、前期3社に対し、4社の実施となった。来期の設備投資は、2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「材料価格上昇」が55.2%と最も多く、次に「商圏人口減少」48.3%、「売上停滞減少」44.8%、「同業者競争」24.1%、「人手不足」・「利幅縮小」13.8%、「人件費増加」・「取引先減少」・「店舗設備老朽化」・「地場産業衰退」が6.9%、「大手企業競争」・「合理化不足」・「取扱商品陳腐化」・「諸経費増加」・「技術力不足」・「代金回収悪化」が3.4%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が53.3%と最も多く、次に「販路拡大」30.0%、「宣伝広告強化」・「技術力強化」・「人材確保」が26.7%、「教育訓練強化」6.7%、「新事業開始」・「連携先確保」が3.3%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は $\Delta 23.3$ と、今期比13.4ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D.I.は $\Delta 16.7$ と、今期比10.1ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D.I.は $\Delta 16.7$ と、今期比10.0ポイントの下降を見通している。

予想料金価格判断D.I.は23.3と、今期比3.4ポイントの下降を見通している。

予想材料価格判断D.I.は50.0と、今期比16.7ポイントの下降を見通している。